

1. 三重県 2. 京都府 3. 兵庫県 4. 滋賀県

1. 湖の周辺に設置されていた堤防が日本海側からの高潮によって決壊し、滋賀県北部を中心に家屋の流出が相次いだ。

2. 大阪湾からの逆流を防ぐために水門を閉鎖した結果、琵琶湖の出口が完全になくなり、京都市内が長期間冠水した。

3. 琵琶湖の水位が記録的に上昇したことで、下阪本村の全戸にあたる70戸が浸水するなど、周辺の地域に甚大な被害をもたらした。

4. 湖の干拓事業が進んでいたため、雨水を貯める機能が低下しており、長時間の雨で急激に水位が上昇して農地に塩害をもたらした。

1. 丹後半島 2. 津輕半島 3. 薩摩半島 4. 志摩半島

1. 観光需要は増加したが、土地不足の影響で宿泊施設の建設が全く行われず、客室稼働率のみが低下した。
2. 東京都の客室稼働率が最も高くなったため、大阪府では過剰な供給を抑えるために客室数が減少した。
3. 外国人宿泊者数は増加したが、日本人宿泊者の激減により客室稼働率は低下し、宿泊施設の廃業が進んだ。
4. 観光需要の増加に伴って客室稼働率が向上し、それに合わせる形で宿泊施設の供給も拡大した。

1. 奈良県や兵庫県は、大阪府へ労働力や学生を送り出す「ベッドタウン」としての役割を果たしている。
2. 鉄道網の整備により、大阪府から周辺の府県へ通勤・通学する流れが、流入する流れを上回っている。
3. 大阪府の昼間人口が多いのは、主に港湾施設での物流作業に従事する人々が周辺府県から集まるためである。
4. 大阪府は、奈良県や兵庫県に住む高齢者が医療や福祉サービスを受けるために昼間のみ移動してくる都市である。

1. 三重県と滋賀県 2. 京都府と福井県 3. 和歌山県と奈良県 4. 兵庫県と大阪府

1. 宿泊施設の総数が多い府県ほど、歴史的資源の数に関わらず観光目的の宿泊者の割合が必ず高くなる。	2. 重要文化財などの歴史的資源が豊富な府県ほど、宿泊客全体に占める観光目的の利用者の割合が高い傾向にある。	3. 歴史的資源が豊富な府県であっても、宿泊客の多くはビジネスや業務を目的とした利用者が大半を占めている。	4. スキー場などのレジャー施設の数が多い府県ほど、重要文化財の数に比例して観光目的の宿泊者が増える。
---	--	---	---

1. 大規模な干拓事業によって琵琶湖の面積が縮小したため、現在は漁業よりも稲作を中心とした農業が産業の主体となっている。	2. 森林面積が県域の多くを占めているため、漁業や農業の生産額よりも林業産出額が統計上で最も大きな割合を占めている。	3. 海に面していない内陸県であるため、海面漁業は行われず、漁業生産のすべてが琵琶湖や河川などの内水面で行われている。	4. 日本海に面した若狭湾を利用して海面漁業が行われているが、統計上は琵琶湖の淡水魚と合算して表記されている。
--	--	---	---

1. 宇宙センターを誘致し、島内での高度な専門職雇用を創出する制度

2. 漁業を廃止し、島内すべての就業者を製造業へ転職させる制度

3. 島外へ通勤するための交通費や高速道路料金を補助する制度

4. 島内の農地をすべて住宅地に転用し、固定資産税を免除する制度

1. 環状道路 2. 放射状の街路 3. 門前町の迷路 4. 碁盤の目

1. 兵庫県 2. 奈良県 3. 和歌山県 4. 滋賀県

1. リアス海岸 — 伊勢志摩国立公園 2. リアス海岸 — 瀬戸内海国立公園 3. フィヨルド — 知床国立公園 4. 砂丘海岸 — 山陰海岸国立公園

答え合わせ・解説

問1	答え 3 兵庫県	兵庫県は阪神工業地帯や播磨臨海工業地域を擁しており、工業製品出荷額において近畿地方で大阪府に次ぐ規模を誇ります。統計上も約14兆円という高い数値を示しており、重化学工業から地場産業まで幅広く発展しているのが特色です。三重県や滋賀県も工業は盛んですが、人口規模や近畿主要府県としての文脈から兵庫県が正解となります。
問2	答え 3 琵琶湖の水位が記録的に上昇したことで、下阪本村の全戸にあたる700戸が浸水するなど、周辺の地域に甚大な被害をもたらした。	1896年（明治29年）の豪雨では、4日間で1000ミリという年間降水量に近い雨が降り、琵琶湖の水位が上昇しました。資料によると、この災害によって死者・行方不明者が34名にのぼり、下阪本村のように全戸が浸水する村が現れるなど、近現代における日本の水害史上でも特筆すべき被害となりました。この背景には、当時の琵琶湖の流出河川が瀬田川一本のみで、排水能力が限定的であったという地理的要因もありました。
問3	答え 4 志摩半島	三重県側に位置し、伊勢湾の南端を形作っているのが志摩半島です。この地域は典型的な沈水海岸（リアス海岸）となっており、その穏やかな海域を活かした真珠の養殖は、三重県を代表する産業として全国的にも有名です。選択肢にある津軽半島は青森県、丹後半島は京都府、薩摩半島は鹿児島県に位置します。
問4	答え 4 観光需要の増加に伴って客室稼働率が向上し、それに合わせる形で宿泊施設の供給も拡大した。	観光需要（宿泊を希望する人の数）が増加すると、既存の宿泊施設の効率を示す客室稼働率が上昇します。大阪府では外国人観光客を含む延べ宿泊者数が右肩上がりに推移したことで、稼働率が極めて高い水準に達しました。このような需要の拡大は投資を呼び込み、新しいホテルの建設といった供給面の増加をもたらすという経済的な因果関係があります。
問5	答え 1 奈良県や兵庫県は、大阪府へ労働力や学生を送り出す「ベッドタウン」としての役割を果たしている。	昼間人口比率が100%を下回るということは、その地域に住んでいる人が昼間は他の地域へ流出していることを意味します。奈良県（89.8%）や兵庫県（95.6%）は、鉄道を利用して大阪府内の企業や学校へ通う人々の居住地となっており、このような地域は「ベッドタウン」と呼ばれます。大阪府が104.5%という高い数値を示すのは、これら周辺の「ベッドタウン」から鉄道網を通じて多くの通勤・通学者を受け入れているためです。
問6	答え 1 三重県と滋賀県	日本の一般的な地方区分では、三重県と滋賀県はどちらも近畿地方に属しています。地理的な位置関係を見ると、三重県は中部地方の愛知県や岐阜県と隣接しており、滋賀県は中部地方の岐阜県と境界を接しています。このように地方の境界に位置する県は、隣接する他の地方とも密接な関係を持っています。
問7	答え 2 重要文化財などの歴史的資源が豊富な府県ほど、宿泊客全体に占める観光目的の利用者の割合が高い傾向にある。	近畿地方、特に京都府や奈良県などは、国宝や重要文化財といった歴史的な文化財が日本国内でも有数の集積地となっています。これらの文化財は強力な観光資源として機能するため、その地域の宿泊客の動向を分析すると、ビジネス客よりも観光を主な目的とする宿泊者の割合が顕著に高くなるという相関関係が見られます。宿泊施設の数そのものではなく、その土地が持つ「文化財」という資源の豊かさが観光需要を直接的に誘発しているのが特徴です。
問8	答え 3 海に面していない内陸県であるため、海面漁業は行われず、漁業生産のすべてが琵琶湖や河川などの内水面で行われている。	滋賀県は周囲を山々に囲まれ、海に面していない「内陸県」です。統計上、漁業は海で行う「海面漁業」と、湖や河川で行う「内水面漁業」に区分されますが、滋賀県には日本最大の湖である琵琶湖があるため、県内の漁業活動のすべてが内水面漁業となります。その結果、統計上では漁業生産量の総数と内水面漁業の数値が一致するという、他県にはあまり見られない特徴的な構造を示します。
問9	答え 3 島外へ通勤するための交通費や高速道路料金を補助する制度	淡路島は明石海峡大橋や大鳴門橋で本州・四国と結ばれており、神戸市や大阪市といった都市部への通勤が可能です。しかし、橋の通行料金などの交通コストが負担となるため、自治体は定住促進の一環として、島外へ通勤する住民の交通費を補助するなどの施策を行い、利便性を高めて人口流出を防ぐ工夫をしています。
問10	答え 4 碁盤の目	平安京は中国の唐の都である長安をモデルに設計されました。東西に通る「条」と南北に通る「坊」を組み合わせる「条坊制」という都市計画に基づいて建設されたため、道路が直角に交わる格子状の街並みが形成されました。この整然とした区画が、囲碁で使う盤に似ていることから「碁盤の目」と呼ばれています。
問11	答え 1 兵庫県	兵庫県は、阪神工業地帯や播磨臨海工業地域を含み、製造業の出荷額が近畿地方でもトップクラスです。また、農業においては広大な県域を活かし、神戸ビーフに代表される畜産や、淡路島のたまねぎなどの野菜栽培が盛んであり、単なる工業県ではなく農畜産業にも特色があります。
問12	答え 1 リアス海岸 ― 伊勢志摩国立公園	志摩半島から三重県南部にかけての海岸線は、かつての山地が沈水してできた複雑な地形であるリアス海岸を形成しています。この美しい景観と歴史的背景から、一帯は伊勢志摩国立公園に指定されており、真珠の養殖なども盛んに行われています。